

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート枚方おおみね学館		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 1 月 1 日	～	令和 6 年 12 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 6 年 1 月 1 日	～	令和 6 年 12 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 28 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的な支援内容の振り返りと改善の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝礼で前日の情報共有と当日来所児童の注意事項の共有を行い、それらを踏まえて当日の活動内容を決定しています。 ・毎日終礼を実施し、当日の療育中におけるスタッフの連携について振り返りを行っている。 ・月に1度スタッフミーティングを実施し、前月の療育内容と児童の様子を振り返り、翌月以降の支援内容の修正を行っている。 	指導員間での振り返り・児発管の視点からの振り返りに加え、専門職員からの心理的な視点からの振り返りと支援内容の修正も実施しはじめている。
2	豊富な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・室内での療育時は感覚統合の視点からの運動療育を実施し、子どもたちが楽しみながら運動機能や体力の向上、舌手の脱着など取り組める内容を実施している。また、お子様の発達に合わせて集団・小集団・個別でのソーシャルスキルトレーニングを実施している。 ・公園では子どものやりたい遊びを中心にして、アスレチック、遊具遊び、砂遊び、集団遊びなどを支援している。 ・学校休業日には、積極的に外出や工作、クッキング等の体験イベントを提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業での取り組みや友達同士での流行りなどお子様の発達に合わせた様々な遊びや運動を取り入れていけるよう情報収集を行う。 ・お子様・保護者様の要望も取り入れて、より実生活に繋げていける体験活動も取り入れていく。
3	参観日の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様に療育の参観、児童と一緒に活動に参加していただくことで、子どもとの家庭外での交流や成長を見ていただく機会を作る。 ・療育の様子を見ていただき、普段の子どもとの関わりの参考にさせていただき保護者支援に繋げる。 ・保護者様に療育の様子を見ていただき、チャイルドハートの療育方針の再認識に繋げるとともに、事後のアンケート等で療育内容の向上・見直し、ご家庭との連携強化に繋げる。 	参観日を通して、保護者様同士の交流の時間や療育内容に関する、より具体的な説明をする機会を設けていくことを検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の保護の必要性 ・お子様・保護者様のニーズの把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験イベントを通して施設との繋がりを作っていく。 ・お子様、保護者様に向けたアンケートを実施し、ニーズを把握して地域と関わるイベント計画等を立てていく。
2	外部機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や相談支援事業所からの情報収集の機会以外に外部機関との連携の機会が現状緊急性が低い。 	今後の需要に備えて、児発管が中心となり関係作りを行っていく。
3	父母の会など保護者様向けの行事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズが少ない。 ・どのような機会、内容を必要とされているかニーズを把握しきれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なニーズを把握して、保護者様に周知して参加を促していく。 ・実施方法について情報収集を行う。

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

公表日 令和 7 年 2 月 15 日

事業所名	チャイルドハート枚方おおみね学館					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	学習スペースと運動スペースを分けて活動ができるスペースがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2		基準を満たしているが、子どもの状況に合わせて今後の配置数を検討する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	視覚補助となるイラスト図やカードを取り入れ、各児童の特性に配慮した取り組みを行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	5S活動をスタッフに周知し、毎日の清掃を行って清潔で過ごしやすい環境作りに努めている。	清掃内容が不十分になりやすい箇所もあるため、定期的に清掃内容の振り返りを行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	3	個別の部屋はないが、カーテンで仕切りを作ったり、他児から見えない環境を整えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	始業・終業時のミーティング、毎月の定例ミーティングを実施し、目標設定と振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	保護者評価をスタッフ間で共有し、改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	毎日のミーティングや定期的な管理者との面談で意見の確認と業務改善を図っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	0	FC本部より定期的に内部監査を受けている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	FC本部や提携病院の医師による研修会に参加。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	HPIにて公表しております。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	定期的な面談を実施し、ニーズや課題を確認・分析を行い、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	直接支援に関わる職員の意見やモニタリングをもとに計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	職員間で計画を共有し、計画に合わせて日々の支援内容を調整している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1		個人の裁量や経験によってしまう部分もあるため、共通のツールを整えていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	本人支援では、5領域を網羅した計画内容を設定し、家族支援・移行支援・地域支援を踏まえた個別支援計画を作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	スタッフ全員参加のもと活動プログラムを設定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	活動内容を記録に残して、固定化しないよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	児童毎に専門的支援計画も作成し、個別や小集団での活動と集団活動を組み合わせて支援を実施している。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	毎日の始業のミーティングを実施し、1日の支援内容や役割分担を確認して、連携を取れるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	毎日終業後のミーティングを実施し、振り返りと共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々の支援記録を踏まえて振り返りのミーティングを行い、支援の検証・改善に繋げている。	
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1	月毎と半年毎に指導員と児発管でモニタリングを実施し、計画の見直しの必要性を判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8	0	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	話合ったり、多数決を取るなど、子どもたちの意見を取り入れた機会を設けている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	担当者会議には、スタッフからの情報共有を受けたくらうで児発管が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	お子様やご家族の状況に合わせて適宜情報共有を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	利用開始時に学校とお迎え場所の共有、送迎時の連絡調整を行っている。行事予定等は学校により、学校から共有していただく場合と保護者経由で共有していただく場合がある。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3		不十分に感じる面もあるので、今後の情報共有に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	5		現状該当する児童がいないが、移行する際には情報提供を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	2	定期的に情報共有を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	公園で地域の子と交流することがある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	5	開催時には、児発管が参加できるよう調整している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	毎回の利用時や定期的な面談を実施。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	5	相談に応じて情報提供を行っている。	今後のニーズがあれば家族支援プログラムの実施を検討する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	作成前には面談を実施し、意向の確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	作成時には同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	定期的な面談の実施と、長期休暇の時期に参観日を実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	5	参観日を実施し、保護者同士の交流の機会を設けている。	現状、保護者会のニーズがないため、ニーズに応じて今後の開催を検討する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	管理者と統括マネージャーが担当し、苦情があった際には迅速に対応できる体制を作っている。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	1	チャイルド通信の発行やHPのブログの更新により、活動の様子や行事予定などを発信している。		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	スタッフ全員に取扱いについての注意喚起を行っている。		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	絵カードの活用など特性に合わせた対応を行っている。		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4		現状実施はしていない。今後のニーズなどにより検討していく。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	各種マニュアルを作成するとともに、訓練を実施している。訓練の様子は通信により発信している。	
		47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	業務継続計画を策定し、災害発生時に備えて避難等の訓練を実施している。	
		48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	保護者より情報提供をいただいている。	
		49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	7	1	医師の指示に基づき、保護者より情報提供を受けて対応している。	
		50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		施設の老朽化などにより安全が確保できなくなってしまうことがないよう、適宜修理等を行い、安全確保に努めている。
		51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	災害時の避難方法など各家庭に周知を行っている。	
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	都度ヒヤリハットを共有し、再発防止に向けて検討を行っている。		
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	定期的に研修を行っている。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	安全の確保など緊急やむを得ない場合に身体拘束にあたる行為を行う旨を支援計画に記載して支援にあたっている。			